

目次

図版および資料解説	1
本文編	
第一章 総論	
第一節 山岳信仰とは	71
第二節 北信地方の山岳信仰	73
第三節 東信地方の山岳信仰	79
第四節 中南信地方の山岳信仰	81
第二章 各論	
戸隠二題 〱「女人禁制」と白沢信仰と〱 牛山佳幸	84
飯縄信仰の特徴	
飯縄信仰のはじまり	94
戦国武士と飯縄信仰	97
天台宗・真言宗と飯縄信仰	100
信濃における飯縄信仰の特徴	103
皆神山信仰について	106
展示資料一覧	110
主な引用・参考文献	114
協力者・写真提供者一覧	115

凡例

◆本書は平成六年十月二日から十月二十三日まで開催の、特別展「信濃の山岳信仰」の展示図録である。

◆本書の掲載順序は、展示の陳列順序とは必ずしも一致しない。

◆資料名の頭についている記号は、それぞれ、

◎は重要文化財、○は重要美術品、□は各県指定文化財、△は各市町村指定文化財をさす。

◆所蔵者名は、公私立の博物館等の機関、ならびに寺院、神社以外は明示していない。

◆写真は長野市立博物館の撮影によるが、一部は所蔵者および協力機関から提供を受けた。写真提供をいただいた方については、冊子末に記した。

◆本特別展の企画は、当館職員の前田和彦と小山丈夫が行ない、当館の職員全員でこれを補助した。

◆本書の執筆は、原田・小山が行ない、信州大学の牛山佳幸氏より玉稿をたまわった。

◆本書の編集は原田が行なった。



飯縄山頂より戸隠連峰・北アルプスを望む

はじめに

長野県は山国といわれ、秀峰や峻峰が四方をとり囲んでいます。山々は、生活の恵みを与えると共に、古来、崇拜の対象ともなりました。そしてわたしたちの祖先は、山に神や仏の姿を見いだし、日本固有の思想を生み出してきました。そうした信仰のなから、わたしたちの文化が生まれ、今日まで伝わる貴重な文化遺産を生み出すこととなりました。

明治時代初期における神仏分離や廃仏毀釈によって、こうした神と仏が共存する山の世界が否定され、そこに受け継がれた文化遺産が離散する憂いにあつてきました。しかし、こうした苦難の時期をも克服しながら、現在まで大切に守り続けられてきた文化財はたくさんあります。これらの文化財は多くの人々の努力によって今日まで大切に守られてきたのです。そしてこれからは、わたしたちが後世に受け継ぐ責務を負っています。

近年、こうした信仰の山にも開発の手がは入り、わたしたち祖先が守り伝えてきた山への畏敬の念は、ともすれば忘れてしまいそうになります。山を畏れ、山の恵みに感謝してきたわたしたちの祖先の心は、忘れてはならないものでしょう。

今回の展示では、長野県内の信仰の山を取り上げ、そこに伝わってきた信仰対象を中心に展示しました。殊に、長野市の象徴でもある飯縄山については多くの資料を集めました。

わたしたち祖先の残したこうした文化財に触れて、山の信仰とはなにか、山とはなにかを改めて考えてみたいと思います。

開催にあたりまして、貴重な資料をご出品いただきました所蔵者の方々はじめ、ご指導、ご協力いただきました多くの方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成六年十月二日

長野市立博物館